

平成29年度 横浜市立根岸小学校「交通バリアフリー教室」の実施報告

はじめに

- 横浜市都市整備局では、福祉の視点からバスへの関心を啓発し、利用を促進するため「交通バリアフリー教室」を行っています。根岸小学校では、横浜市交通局と連携し実施しました。
- 根岸小学校は、JR 根岸線 根岸駅を最寄り駅とし、横浜都心部との接続の良い地域です。
- 駅直近にある小学校なので、子どもたちの多くは、**日常的にバスをあまり利用しない**ようです。

1 交通バリアフリー教室の全体概要

- 交通バリアフリー教室は、横浜市都市整備局が担当する「バスのバリアフリー」に関する座学とともに、実際のバス車両や車いす等を使った体験授業も行われました。
- クラス別に、①バス車両を用いた車いす利用体験・介助体験、②バスの乗り方に関する紙芝居及び運転席からの死角の体験、③バスのバリアフリーに関する座学を行いました。
- バリアフリーを始め、バスに関する様々な“知識”と、実際の“体験”を同時に行うことで、子どもたちのこれからの生活の中で「活かした知識」として根付くことを期待します。
- 横浜市都市整備局は、③の座学において、**バスやタクシーのバリアフリーの現状や、モビリティマネジメントの大切さ**を伝えました。

■交通バリアフリー教室について

- 【日時】平成29年7月6日(木)
第1～4校時(8:50～11:30)
- 【対象】根岸小学校
4年生1～3組(108人)
- 【内容】①バスを用いた車いす利用体験・介助体験
②バスに関する紙芝居、バスの死角体験
③バスのバリアフリーに関する座学
→クラスごとに分かれて実施



座学



車いす利用・介助体験



死角体験



バスの乗り方に関する紙芝居

2 「バスのバリアフリーに関する座学」の内容

- 座学では、「もっと知ってほしいバスのこと」と題して、車いすの方もお年寄りも、「**誰もが使いやすい**」を目指して取り組んできた、**バスのバリアフリーの現状**を中心に授業を行いました。
- その中で、バスの利用者が減少していくと「**バスが将来、無くなってしまふ**」可能性もあることを、マンガリーフレットを用いて伝えました。
- また「**便利なクルマに頼りすぎず、バスで行ける所はバスで行くこと**」など、心がけてほしいことを伝えました。
- 子どものバスの利用状況を聞くと、上大岡に買い物に行く時やみなとみらいに行く時などで、日常的に利用している子どもは、塾や習い事などで利用する一部の子どもでした。
- 大人になり、色々な場所で暮らし、活動するようになったときに「**クルマばかりに頼ることなく、行き先や状況に応じて、バスを上手に使うって暮らし**」ことが大切であることを伝え、授業を終えました。

■座学に用いた教材

- ①説明用パワーポイント:もっと知ってほしい「バス」のこと



- ②小学生向けマンガリーフレット



おわりに

- 今回の交通バリアフリー教室では、交通局より普通のバスより小さな**ポンチョバス**を用意頂き、バスに馴染みやすくなったのではないかと感じました。また小さなバスでもちゃんとバリアフリーを考えている事が伝わったと思います。
- 子どもからは、「**バスで車いすを利用している人などを見かけたらサポートしたい。**」との意見があり、バリアフリーの大切さを知るきっかけとなる「交通バリアフリー教室」となりました。
- また、普段は座る事の出来ない運転席に座ってバスの死角について学んだり、バスのルールや乗り方を学んだり、バスの運転手さんと積極的に交流するなど、バリアフリーの事だけでなく、バスの様々なことを学んでいました。



かわいいポンチョバスに触れる事が出来、子どもたちは楽しく授業を受けている様子が見られました。



普段は座れない、運転席からの見える、バス車外や車内の様子しり、安全のために大切なことを学びとっていました。